

# HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic

HP Operations Manager i (Linux および Windows<sup>®</sup> オペレーティング  
システム)向け

ソフトウェアバージョン: 1.00

## インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 6 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

**HP Software Solutions Now**は、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

## 目次

目次 .....	4
第1章: はじめに .....	6
このマニュアルで使われている略語 .....	6
関連ドキュメント .....	7
ライセンス .....	7
第2章: OMi MP for Oracle WebLogic のインストール .....	8
インストールメディア .....	8
インストールの前提条件 .....	9
ハードウェア要件 .....	9
ソフトウェア要件 .....	9
インストール時のチェックリスト .....	10
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール .....	11
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール .....	11
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール .....	11
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール .....	13
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール .....	15
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール .....	17
BSM での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール .....	17
Linux BSM サーバーの場合 .....	17
Windows BSM サーバーの場合 .....	18
Operations Orchestration (OO) フローのインストール .....	20
OO フローのアップロード .....	20
ライセンスの適用 .....	21
OMi MP for Oracle WebLogic のインストールの検証 .....	21
第3章: 作業の開始 .....	23
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加 .....	23
タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ .....	23

タスク 3: 検出の確認 .....	25
タスク 4: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ .....	26
Task 4a: 管理テンプレートの特定制とデプロイ .....	26
タスク 4b: WebLogic アスペクトのデプロイ .....	28
タスク 5: トポロジ同期設定の確認 .....	28
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。 .....	30

# 第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic (OMi MP for Oracle WebLogic) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、環境内で稼働する WebLogic アプリケーション サーバーの主要および詳細コンポーネントと基盤インフラストラクチャを監視できます。OMi MP for Oracle WebLogic には、Oracle WebLogic アプリケーション サーバーの状況およびステータスを監視するための次のコンポーネントが含まれています。

- WebLogic 管理テンプレート
- WebLogic アспектおよびポリシー テンプレートの使用
- パラメーター
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- イベントタイプインジケータ (ETI)
- 状況インジケータ (HI)
- トポロジベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- Operations Orchestration (OO) フロー
- HI 割り当て
- KPI 割り当て
- ツール
- グラフテンプレート

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプの PDF 版を参照してください。

## このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル

名称	説明
MPDVD	OMi Management Pack for Oracle WebLogic DVD
BSM DPS	BSM データ処理サーバー
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバー
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Oracle WebLogic	HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic

## 関連ドキュメント

BSM、OMi、Monitoring Automation の詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi MP for Oracle WebLogic の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンラインヘルプの PDF 版

## ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに1ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンスを5個、OMi MP for Oracle Database のライセンスを10個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、[www.hp.com/software/licensing](http://www.hp.com/software/licensing) にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

## 第2章: OMi MP for Oracle WebLogic のインストール

この項では、Linux および Windows BSM サーバーでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールについて説明します。

### インストール メディア

この項では、OMi MP for Oracle WebLogic のインストール メディアについて説明します。OMi MP for Oracle WebLogic は、OMi MP for Oracle WebLogic Server DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストール メディアを使用できます。

OMi MP for Oracle WebLogic DVD と電子メディアには、ソフトウェアと製品ドキュメントが収録されています。パッケージには、OMi MP for Oracle WebLogic の各種機能が含まれています。分散環境では、BSM データ処理サーバー (BSM DPS) とゲートウェイ サーバー (BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの【ヘルプ】メニューで利用できます。  BSM コンソールで、【ヘルプ】>【BSM ヘルプ】>【Application Administration】>【Operations Management】>【OMi Management Pack for】を選択します。	以下の情報を提供します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>管理テンプレートの使用</li> <li>アスペクトおよびポリシー テンプレートの使用</li> </ul>
インストール ガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	<ul style="list-style-type: none"> <li>HI と ETI の各インジケータ、TBEC ルールの使用</li> </ul>
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
リリース ノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	以下の情報を提供します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>Salient 機能</li> <li>インストールについて</li> </ul>

## インストールの前提条件

以下の項では、Linux および Windows BSM サーバーでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

### ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

### ソフトウェア要件

OMi MP for Oracle WebLogic をインストールする前に、BSM サーバーへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

#### BSM サーバー

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

\* サポートされている最新バージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 を使用することをお勧めします。

#### 管理ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.12 以降*
JRE	1.6 以降

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

\* サポートされている最新バージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

#### SiteScope サーバー:

コンポーネント	バージョン
SiteScope	11.22 以降*

\* サポートされている最新バージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

注: ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートをデプロイする場合、SiteScope 11.22 以上のバージョンをインストールする必要があります。

## インストール時のチェックリスト

OMi MP for Oracle WebLogic のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.23 以上のインストール	『BSM インストールガイド』を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以上のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Installation Prerequisites (インストールの前提条件)」と「Installing and Configuring Monitoring Automation on BSM servers (BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成)」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の Monitoring Automation のインストールの確認と操作に関する章を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。

タスク	参照先
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	<a href="#">「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」</a> の項を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle WebLogic 1.00 のインストール	<a href="#">「BSM での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール」</a> の項を参照してください。
ライセンスの適用	<a href="#">「ライセンスの適用」</a> の項を参照してください。

## Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

OMi MP for WebLogic をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新は MPDVD に収録されています。

## 分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして [「一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール」](#) を参照してください。

## BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の `opr-config-content-server.war` ファイルのバージョンをチェックします。

**Linux の場合:**

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

**Windows の場合:**

BSM がインストールされているドライブ (たとえば C:) に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

**注:** バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次のステップに進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダーに存在する既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-content-server.war` ファイルを別のフォルダーにバックアップする必要があります。

4. `HPOprMA_update.zip` を一時フォルダーに展開し、`opr-config-content-server.war` を次

のフォルダーにコピーします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

**Windows の場合:**

```
cscrip %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

## BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

**Linux の場合:**

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

**Windows の場合:**

BSM がインストールされているドライブ (たとえば C:) に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

**注:** バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次のステップに進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダーに存在する既存の `opr-config-server.war` ファイルをバックアップします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-server.war` ファイルを別のフォルダーにバックアップする必要があります。

4. `HPoprMA_update.zip` を一時フォルダーに展開し、`opr-config-server.war` を次のフォルダーにコピーします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

## 一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブ (たとえば C:) に移動します。

```
cd %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次のステップに進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダーに存在する既存の `opr-config-server.war` ファイルをバックアップします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-server.war` ファイルを別のフォルダーにバックアップする必要があります。

4. `HPoprMA_update.zip` を一時フォルダーに展開し、`opr-config-server.war` を次のフォルダーにコピーします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい `war` ファイルをデプロイします。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

**Windows の場合:**

```
cscrip %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

**Linux の場合:**

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

**Windows の場合:**

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

# OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

## BSM での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール

Windows または Linux BSM サーバーへの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールは、MPDVD から行えます。この項では、BSM サーバーでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールについて説明します。

**注:** BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic をすべての BSM サーバー (BSM DPS および BSM GWS) にインストールする必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。

### Linux BSM サーバーの場合

**注:** BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic が DPS およびゲートウェイ サーバーを含むすべての BSM サーバーにインストールされている必要があります。

OMi MP for Oracle WebLogic を Linux BSM サーバーにインストールするには、次の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログオンします。
2. コマンド `umask 027` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスク ドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを /<mount\_point> に変更します。
6. 次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale &lt;mplocale&gt;</code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle WebLogic をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプ メッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh\_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

7. 使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: EULA に同意しないと、OMi MP for Oracle WebLogic はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic のインストールが正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

## Windows BSM サーバーの場合

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic が DPS およびゲートウェイ サーバーを含むすべての BSM サーバーにインストールされている必要があります。

OMi MP for Oracle WebLogic を Windows BSM サーバーにインストールするには、次の手順を実行します。

1. DVD をディスク ドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i
英語以外の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP ロケール>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle WebLogic をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

**注:** 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP Locale>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプ メッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh\_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. 使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic のインストールが正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。

## Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for Oracle WebLogic の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for Oracle WebLogic での HP OO Studio (バージョン 9.0x 以上) の OO フローのインストールについて説明します。

### OO フローのアップロード

OMi MP for Oracle WebLogic から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. 必要な OO JAR ファイル (HP0prOOJEE90.jar) を、HP OO Studio (バージョン 9.0x 以上) がインストールされているシステムの一時ディレクトリにコピーします。

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<temp>/HP0prOOmss90" -centralPassword <centralpassword>
```

**注:** HP OO の管理者ユーザーがデフォルト ユーザーではない場合、さらに別のパラメーターが必要になります。コンテンツのインストールと利用可能なオプションの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

```
../Library/Operations Management/..
```

3. BSM コンソールの次の場所から、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

[管理] > [統合] > [Operations Orchestration]

## ライセンスの適用

新しいライセンスで更新するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[セットアップと保守]** > **[ライセンス管理]** をクリックします。
2.  をクリックすると **[ライセンスの追加]** ダイアログ ボックスが開くので、使用する **.dat** ファイルを検索します。ファイルがクライアントマシンから BSM サーバーにアップロードされます。
3. **[ライセンス管理]** ページの下にある **[サーバデプロイメント]** リンクをクリックします。

ライセンスを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[セットアップと保守]** > **[ライセンス管理]** をクリックします。
2.  をクリックし、**<ライセンス ファイル名>** を選択します。ライセンスの詳細情報が **[ライセンス管理]** ウィンドウに表示されます。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

## OMi MP for Oracle WebLogic のインストールの検証

この項では、Linux および Windows BSM サーバーでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールについて説明します。

OMi MP for Oracle WebLogic のインストールは、次の手順のいずれかで検証できます。

- 以下の場所で BSM GWS および BSM DPS のログ ファイルをチェックします。

**Linux の場合:** /opt/HP/BSM/log/mpinstall.log

**Windows の場合:** %TOPAZ\_HOME%\log\mpinstall.log

- BSM コンソールで次の場所をチェックします。

**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[セットアップ]** > **[コンテンツパック]**

**[コンテンツパック定義]** ペインに、**OMi Management Pack for Oracle WebLogic** が表示される必要があります。

- BSM にインストールされた OMi MP をチェックするには、以下のコマンドを実行します。

**Linux の場合:** `/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l`

**Windows の場合:** `%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l`

**注:** ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

**注:** 以下の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログがあります。

**Linux の場合:** `/opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log`

**Windows の場合:** `%TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log`

## 第3章: 作業の開始

この項では、Business Service Management (BSM) を使用して WebLogic アプリケーション サーバーを監視するための OMi MP for Oracle WebLogic の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。OMi MP for Oracle WebLogic は、WebLogic アプリケーション サーバー内で発生するイベントの分析を行い、WebLogic アプリケーション サーバーの状況ステータスをレポートする各種インジケータ (状況インジケータ (HI)、イベントタイプインジケータ (ETI)、および相関ルール) を備えています。

### タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタされるノード] マネージャーを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタされるノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタされているノード] をクリックし、\* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティング システム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

### タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ

WebLogic 検出アスペクトにより、環境内の WebLogic Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の WebLogic アプリケーション サーバー構成アイテム (CI) を検出するには、WebLogic 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [アスペクト]

3. [Weblogic アスペクト] フォルダーで **[Weblogic 検出]** アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、**[次へ]** をクリックします。  
  
**[必要なパラメータ]** タブが開きます。
5. **[必要なパラメータ]** タブでは、必須パラメーターである **[Weblogic Server ホーム]** と従属パラメーターを指定します。

**注:** [Weblogic Server ホーム] のすべてのパラメーターに対し、従属パラメーターである [Weblogic JAVA ホーム]、[Weblogic ユーザ名]、[Weblogic パスワード] を設定する必要があります。

- OMi MP for Oracle WebLogic が WebLogic アプリケーション サーバー CI を検出するには、WebLogic 検出アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報に WebLogic アプリケーション サーバーへのアクセス権が必要です。
  - WebLogic 資格情報には、[管理者] または [モニタ] のグループユーザー権限が必要です。[管理者] または [モニタ] グループに属するユーザーを設定するには、WebLogic 管理サーバー コンソールを使用する必要があります。
  - ユーザーの作成とグループへの割り当ての詳細は、Oracle Weblogic からのユーザーおよびグループの管理に関するドキュメントを参照してください。
- a. リストの **[Weblogic Server ホーム]** パラメーターを選択して、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: Weblogic Server ホーム] ダイアログ ボックスが開きます。
  - b. 従属パラメーターの値を指定します。
    - i. リストの **[Weblogic JAVA ホーム]** パラメーターを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Weblogic JAVA ホーム] ダイアログ ボックスが開きます。
    - ii. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
    - iii. リストの **[Weblogic ユーザ名]** パラメーターを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Weblogic ユーザ名] ダイアログ ボックスが開きます。
    - iv. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
    - v. リストの **[Weblogic パスワード]** パラメーターを選択して、 をクリックします。

[パラメータの編集: Weblogic パスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

- vi. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- c. **[OK]** をクリックします。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。パラメーターのデフォルト値を変更するには、パラメーターを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

**注:** [すべてのパラメータ] ペインでは、パラメーターのデフォルト値を上書きできます。各パラメーターの値は、アスペクト レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメーターとして定義されているパラメーターは表示されません。エキスパート パラメーターを表示するには、**[エキスパート パラメータの非表示/非表示解除]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** マネージャーを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

**注:** Oracle WebLogic のシングル インストールでは、すべてのドメインで同じ資格情報を使用する必要があります。

**注:** Weblogic 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。**[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ]** を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。

## タスク 3: 検出の確認

検出アスペクトをデプロイした後、トップビューにCIが表示されていることを確認する必要があります。

トップビューのCIを表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[MyBSM]** をクリックします。
2. ドロップダウン リストから **[トップ ビュー]** を選択します。[トップ ビュー] ページが表示されます。
3. [トップ ビュー] ページで **J2EE\_Deployment** ビューを選択します。トップ ビューに CI が表示されています。

## タスク 4: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ

**Monitoring Automation for Composite Applications** ライセンスを使用している場合、WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトを WebLogic CI にデプロイできます。WebLogic 管理テンプレートのデプロイの詳細は、[「タスク 4a: 管理テンプレートの特定とデプロイ」](#) を参照してください。

**Monitoring Automation for Server** ライセンスを使用している場合、WebLogic アスペクトをデプロイできます。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、[「タスク 4b: WebLogic アスペクトのデプロイ」](#) を参照してください。

### Task 4a: 管理テンプレートの特定とデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、WebLogic サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、[「タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ」](#) を参照してください。

WebLogic 管理テンプレートのデプロイでは、次に示すように、環境に適した WebLogic 管理テンプレートを特定する必要があります。

- WebLogic アプリケーション サーバーの主要コンポーネント (サーバー ステータス、JVM、JDBC、EJB、サーブレット、サーバー ログなど) と、インフラストラクチャの重要コンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、基本 WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバーの詳細コンポーネント (トランザクション、クラスター ステータス、キャッシュ使用率、スレッド、サーバー ログなど) とインフラストラクチャ コンポーネント (CPU、メモリ、ディスクなど) を監視する場合、詳細 WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバーの詳細コンポーネント、Oracle データベース コンポーネント (基本クエリ、メモリなど)、インフラストラクチャ コンポーネントを監視する場合、詳細 WebLogic とデータベース管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバーの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要

な部分である CPU、メモリ、ディスク (WebLogic エージェントレス アスペクトを使用して監視する WebLogic アプリケーション サーバーのポートおよびアプリケーション URL の可用性を含む) を監視する場合、ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。

詳細 Weblogic とデータベース管理テンプレート以外の WebLogic 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。詳細 Weblogic とデータベース管理テンプレートのデプロイの詳細は、オンライン ヘルプの「詳細 Weblogic とデータベース管理テンプレートのデプロイ」を参照してください。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] マネージャーを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [管理テンプレート]

3. [WebLogic 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic Application Server CI をクリックし、[次へ] をクリックします。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。[次へ] をクリックしてすべての CI を確認し、[すべてのパラメータ] に進みます。
5. パラメーターのデフォルト値を変更するには、パラメーターを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

**注:** [すべてのパラメータ] ペインでは、パラメーターのデフォルト値を上書きできます。各パラメーターの値は、管理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメーターとして定義されているパラメーターは表示されません。エキスパートパラメーターを表示するには、[エキスパートパラメータの非表示/非表示解除] をクリックします。

6. [次へ] をクリックします。
7. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] マネージャーを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. [完了] をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、OMi Management Pack for Oracle WebLogic のデータ収集権限が必要です。

## タスク 4b: WebLogic アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Weblogic サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebLogic アスペクトを WebLogic CI にデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [アスペクト]

3. [Weblogic アスペクト] フォルダーで  をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] ページで WebLogic アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。

注: J2EE アスペクトの割り当てにパラメーターの指定は不要です。

5. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。パラメーターのデフォルト値を変更するには、パラメーターを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
6. [次へ] をクリックします。
7. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] マネージャーを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. [完了] をクリックします。

## タスク 5: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは CI が HP Operations Manager によって監視される場合、トポロジ同期設定を

確認することをお勧めします。

1. [オペレーション管理] から [インフラストラクチャの設定] を開きます。  
**[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャの設定]**
2. [インフラストラクチャの設定] マネージャーで、**[アプリケーション] > [オペレーション管理]** を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync にはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他の Topology Sync パッケージとともに、**default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE** があることを確認してください。

## お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チームまでご連絡](#)ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

### Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Oracle WebLogic 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。